

魚 類 の 生 活 色 に 就 いて (第 14)

黒 田 長 禮

On the life colors of some fishes—XIV

Nagamichi KURODA

(190) コケピラメ (カシベタ) *Citharoides macrolepidotus* HUBBS (1915). 1946 年 4 月 9 日伊豆井田沖手繰網 80 尋に入った 1 点 (全長 202 mm) を入手した。虹彩上方灰褐色, 下方銀色, 内細輪は金色。鱗 (42 個) は剝離性大形の楕歯状。有眼側はオリーブ灰色。鰓蓋にバラ色を帯びる。P. 基部上方に 1 黒小点があり, P. 先端近くとその上下の体面に各々 1 小線黒斑がある。側線中部にも 1 黒斑, その外側では尾柄迄に 3 対斑があり, 尾柄基部の上下のものは黒色が明瞭, 他は不判明である。D., V., A., C. は淡オリーブ灰色の地に多くの黒小斑点を散在する。P. は淡色無斑。無眼側は淡バラ色を帯びた蒼白色。P. は淡紅白色。V. は白色。他の鱗は有眼側と同じで灰白色に有斑。特徴: 尾柄に近き D. と A. の各 3 軟条基部に純白の 1 斑があり目立つ。

駿河湾では極めて稀種である。

(191) ガンゾウピラメ *Pseudorhombus cinnamomeus* (T. & S.). 1946 年 3 月 27 日土肥沖手繰網に入った中 (雌) 1 点 を入手した。全長 202, 体長 163 mm, D. 72, A. 56。有眼側は帯オリーブ灰褐色。凡べての鱗に小灰黒斑がある。眼状斑を交える。虹彩は淡黄白色, 上方は暗褐色, 内細輪は金色。無眼側は特記の要がない。普通種で静岡方言テキナという。

(192) ニホンダルマガレイ *Arnoglossus japonicus* HUBBS. 1946 年 1 月 11 日志下沖手繰 50 尋で幼 3 点 (全長 70.5, 76, 79 mm) 及び 3 月 23 日に 1 稚魚 (全長 42 mm) を入手し, 又 1947 年 1 月 15 日千本沖手繰にて幼 1 点 (全長 87.5 mm) を得た。側線鱗は 60~63 を算えた。全長 79 mm の個体では体長 66 mm, D. 97, A. 77 を算える。体は甚だ薄く有眼側は半透明で淡鉛色で淡色であるのは幼魚の為めかとも思われた。鱗は剝離性が強く殆ど脱落する。有眼側には殆ど消失した極めて不判明な灰色の 9~10 横帯が微かに存する。D., A., V., C. は全部淡色で軟条に黒軸長味の白斑が疎に散在する。体形は長楕円形寧ろ長味強いのは幼魚の為めかと思う。

ナガダルマガレイ (*A. tenuis* GÜNTHER) に似るが, 体長が頭長の 3.1 倍 [4 倍に達しない] で, $4\sim 4\frac{1}{3}$ 倍でないことと A. の軟条が 77 個で, 70~74 個でないこと等で異なる。駿河湾ではニホンダルマガレイは普通種で, ナガダルマガレイの方が少ない。

(193) ウィダルマ *Engyprosopon ui* (TANAKA). 1945 年 9 月 19 日千本沖手繰網中の只稚魚 1 点 (全長 78 mm) と 1946 年 3 月 27 日土肥沖手繰網 100 尋で 1 点 (全長 99 mm) とを入手した。前者の新鮮色は有眼側の色のノートを失ったので略す。無眼側の前 $\frac{1}{3}$ は白く (その長さ 21~25 mm), 残部 $\frac{2}{3}$ は紺色 (その長さ 47 mm)。P. は有眼側では上方 4 軟条が特に延長し少し鎌状となる (長さ 19 mm)。無眼側の P. は白色にて甚だ短小 (長さ 9 mm)。D. と



Fig. 1. ウイダルマ 無限側 土肥沖手線網 全長 99 mm (小林重三写生) 著者原図

A. の各軟条には数個の暗小斑がある。C. には 2 暗横斑がある。D. ca 80, A. 64, P. 11, 側線鱗 58 個。虹彩は赤橙黄色。吻棘がある。

土肥沖漁獲の 1 点は吻棘があり、無眼側前 $\frac{1}{3}$ は白く、後方 $\frac{2}{3}$ は灰紺色を呈した。

駿河湾には多からぬ種類である。

(194) コウベダルマガレイ *Crossorhombus valde-rostratus* (ALCOCK). 1946 年 4 月 9 日伊豆井田沖手線網 80 尋にて漁獲の 3 点を入手した。即ち

全 長	D.	A.	縦 列 鱗	備 考
111 mm	79	65	52	---
101.5	—	—	61	---
89	—	—	55	吻棘がある

ダルマガレイに頗る似るが、C. 上下縁に黒斑がない。雄には吻棘がある。虹彩はダルマガレイに等しい。有眼側は地色淡褐色に黒褐色斑紋が多くある。P. の上方軟条はウイダルマと同様相当に延長するが、体の中央を超えぬ。此軟条に小暗褐色点がある。D., A., V. は淡褐色と擬白色の斑をなす軟条と処々に黒褐色の軸斑が基部附近又は先端に散在する。C. は淡色地に淡褐色の不判明の 2~3 横帯がある。無眼側は白色。D., A., C. を除き他の鱗は白色無斑である。

(195) マルダルマガレイ *Bothus ovalis* (REGAN). 1945 年 10 月 17 日志下海岸で山内豊秋君採集の稚魚 1 点を入手した [図は「動・雑」61 (6): p. 176, fig. 8 に掲出]。全長 40, 体長 34, D. 89, A. 66, P. 9, 縦列鱗 ca. 94 個。

体は短く、卵形、体鱗は小円形。体色は無眼側は白色。有眼側は淡灰色の地に側線上中央から後部に 1 縦卵形の黒褐斑があって明瞭。其他は暗褐小円点と淡褐小点とよりなる大小の白斑、時に長味斑もあって体面には尚お其他小淡褐点をも連続的に散在し、そのために網目状を

呈する。頭と鰓蓋上には小淡褐点を相当密布する。D. と A. とは淡色地に軟条に暗褐色の小さい長味斑が 1~2 個あり、是等は疎在する。C. は淡色地に約 3 暗褐小点の横斑をなしている。P. は多少延び側線に達し、各条に 2 暗褐小斑がある。D. の起点は吻端より上方で、下眼の方に近い。

(196) ヤリガレイ *Laeops lanceolata* FRANZ. 1946 年 4 月 2 日志下沖手繰網で 1 点 (全長 152 mm), 1947 年 1 月 15 日と 31 日に千本沖手繰網で 2 点 (全長 111 mm, 110 mm) を入手した。本種は左向きでヒラメ科に入る。第 1 例は D. 104, A. 86, V. 有眼側 5, 無眼側 6。吻端は黒く、垂直鰭と C. は黒色、基部は淡色。有眼側の鱗は剝離性が強い。体色は紅灰色、凡べての鰭は黒い。頭は暗紅色。無眼側の鰓蓋後骨と腹膜とは乳白色。体の他部は淡紅白

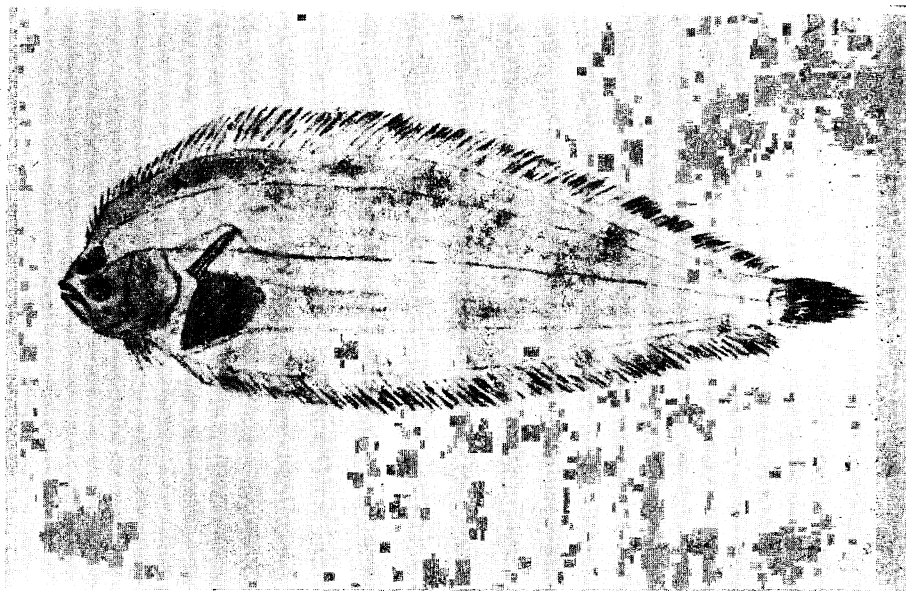


Fig. 2. ヤリガレイ 千本沖手繰網 全長 111 mm (著者原図)

色である。虹彩は上方暗褐色、下方は灰色、内細輪は黄色。第 2 例では D. 105, A. 85, 腹膜 (眼側) は灰蒼色で目立つ。背・腹両縁には 5~6 個の微かな暗色斑がある。第 3 例では C. に 2 黒横帯がある。其他特に異らない。

(197) カワラガレイ *Poecilopsetta plinthus* (JORDAN & STARKS). 1945 年 10 月 24 日と 1947 年 1 月 31 日に千本沖手繰網にて 3 点, 1946 年 4 月 13 日に志下沖手繰にて 1 点, 1947 年 12 月 26 日獅子浜にて 1 点を手入した。表記すると

全 長	体 高 (V 部)	最 高	漁 獲 地
91 mm	23.5 mm	—	千 本 沖
103	28	—	同
110	27	35.5	同
134	34	45.5	志 下
127	—	—	獅 子 浜

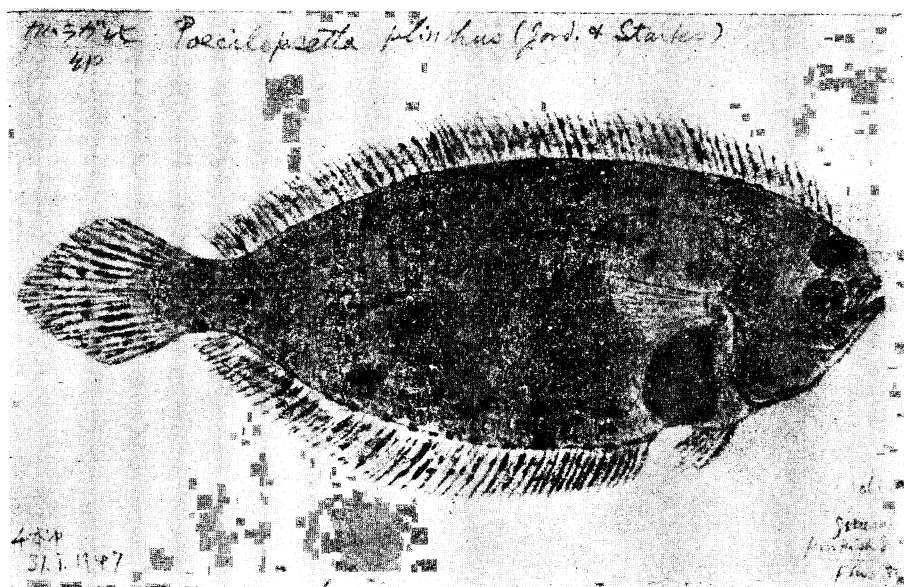


Fig. 3. カワラガレイ 千本沖手繰網 全長 110 mm (著者原図)

有眼側は右向。その地色は帯オリーブ紅灰色で、処々に不判明な点黒色の瓦状の斑がある。両眼後方と鰓蓋前骨の縁は桃色を帯び、内臓部の紫黒色が透して見える。C. には基部近く黒帯があるが、中部は淡色で、又中央にも 1 黒点がある。D. と A. は共に灰色で、軟条に小黑斑があり、P. と V. は共に小さく多少の小点斑を有する。虹彩は灰色で内細輪は黄金色。

(198) ササウシノシタ *Heteromycteris japonicus* (T. & S.). 1946 年 1 月 11 日志下手繰にて稚魚 4 点 (全長 39, 40, 42, 43.5 mm) を入手。同年 3 月 11 日に桃郷小曳網で稚魚 1 点 (全長 59.5 mm) を得た。虹彩は暗褐色、内細輪は黄金色。有眼側は濡砂色の×印斑と黒褐色の小円集状斑を散在する外、擬白色の小点多数を密布する。死すと体を曲げるので方言マガリという。

(199) トビサウシノシタ *Aseraggodes kobensis* (STEINDACHNER). 1945 年 10 月 24 日千本沖手繰網にて 1 点 (全長 92 mm), 1946 年 1 月 8 日志下手繰にて稚魚 1 点 (全長 37 mm) を得た。第 1 例は有眼側 (右向) は暗オリーブ褐色に無数の小円斑があるが不明瞭である。此の外に数個の大形の淡褐色で縁が淡黒色のものがある。各鱗は淡褐色で小斑がある。虹彩は灰色に褐色点があり、内細輪は黄金色である。第 2 例の稚魚の色は記録しなかった。

(200) セトウシノシタ *Zebrias japonicus* (BLEEKER). 1946 年 4 月 9 日伊豆井田沖手繰網 80 尋にて 1 点 (全長 142 mm) を入手。虹彩は橙黄色。有眼側の地色は黄白色、それに 23 位の横帯があり、各帯は暗褐色の縁を持ち、内方は淡白褐色で、体の中央より前方の帯は不規則となり、時に他帯と一部分癒合している。而して D. と A. には達しないで止まる。吻端は淡赭褐。V. は 1 対で黄白色、D. と A. は大小の真黒長味斑と擬円斑とある外、一体に美黄色で、外縁部は淡蒼色で、それに上記の擬円黒斑が 1~2 個づつあり、この斑のない膜もある。C. 基部は暗黄色、前半真黒色で、D. と A. とには完全に続かない。体には櫛鱗がある。無眼側は淡帯紅白色、D. と A. は黒色、基部と先縁は蒼白色。C. の基部は灰白、次に大黒色部があり、先縁は蒼白色である。

(201) クロウシノシタ *Rinoplagusia japonica* (T. & S). 1946 年 5 月 29 日 志下沿岸近くでの“魚突漁”(仮名)で 10 枚程捕獲されたものの内 2 点(全長 284, 340 mm)を入手した。大なる方は有眼側は暗オリーブ色で、無斑。無眼側は白地に中央以下に灰黒色小斑点を密布し、前半は斑点少く、最前端に至れば白のみとなる。他に入手しなかった同大のものもまた此例に等しかった。

小の方は有眼側は暗オリーブ色に黒色小円点を散在し、無眼側は後方に少量の小灰黒点ある外は白色である。共に有眼側の各鱗はオリーブ色で、無眼側では黒色が顕著で、縁辺は暗クローム黄色〔白色のみではない〕を呈する。虹彩は暗褐色、内細輪は黄金色。方言ナガト。

1946 年 1 月 8 日 志下沿岸手繰で稚魚 1 点(全長 51.5 mm)を入手した。これは口唇に多くの触手状突起がありクロウシノシタの稚魚と思われる。有眼側にはオセレート(淡円斑)が美しくあるものである。

別に同網にてウシノシタ類の稚魚(全長 56.5 mm)を入手したが、この方は有眼側に大理石模様をしているもので、何の種の稚魚か未だに査定が出来兼ねている。御教示を乞う。

(202) ゲンチョ(ゲンコ) *Areliscus interruptus* (GÜNTHER). 静浦方言オキノナガト。1946 年 3 月 27 日 土肥沖手繰網 100 尋にて 1 点(全長 195 mm)、同年 4 月 9 日 伊豆井田沖手繰 80 尋にて 1 点(全長 160.5 mm、鱗列 70)を入手。第 1 例は D. 180, A. 86, V. 5, 鱗列 70(尾鱗基底迄)。有眼側は灰褐色で、前方と後方とに不明の淡黄色大斑紋がある。D. と A. はバフ色の地に暗褐色の斑と紋(多少虫喰形)とあり、そのために地色が暗色となり、後方程暗くなる。P. は無い。V. は淡黄白色で少し灰色斑ある軟条がある。無眼側は淡黄白色。虹彩は灰黄色である。第 2 例についてはノートして置かなかった。

Résumé

The fourteenth of this article contains descriptions of life colours of the species Nos. 190~202, with some interesting notes on the several species of the order Pleuronectida such as *Citharoides macrolepidotus*, *Engyprosopon ui*, *Poecilopsetta plinthus*, *Areliscus interruptus*, etc. from Suruga Bay.